府立寝屋川高等学校
准校長　浅川　又一

平成 30 年度　学校経営計画及び学校評価

1　めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

１．生徒が自分の未来を創造できる学校
２．生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
３．地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2　中期的目標

1　勉強がわかる喜びを伝える

（1）授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア　生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

①　生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。

②　ＩＣＴや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。

③　授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率（H29 年度は 78%）を H32 年度には 85%する。

イ　授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率（H29 年度は 64%）を H32 年度には 75%にする。

ウ　ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

（2）授業において、図書室の利用を促進する。

2　人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

（1）命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア　生徒指導時のみならず、教科の学習およびＨＲ・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率（H29 年度 79%）を H32 年度には 85%にする。

（2）様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

ア　挨拶ができる生徒を育てる。

イ　生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ　各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ　ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年度より増やす。

（3）生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が H32 年度にかけて毎年 85%を下回らないようにする。(H29 年度 86%)

（4）「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、H31 年度までに、文部科学省が公表する平成 26 年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の 11.1%以下を目標とする。

※中退率 H26 年度 20.6%　→　H31 年度末　11.1%にする。

3　夢や志を抱く喜びを伝える

（1）生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア　進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ　進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ　就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率（H29 年度１月 31 日現在 59%）について H32 年度は 60%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の問（No.15,16）の平均肯定率（H29 年度 80%）を H32 年度は 85%にする。

4　組織の活性化と人材育成

（1）校内組織の活性化

校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。

（2）職務の効率化の取組み

※年間時間外勤務　→　360ｈ以内

（3）首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

府立寝屋川高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析（平成30年12月実施分）	学校協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1　勉強がわかる喜びを伝える	（1）「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり ア　生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る	ア　生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに向け以下の点に取り組む。 ①・授業の目的や大切なポイントを説明する ・授業ではわかりやすい説明をする。 ・授業中に生徒の知識・技能の定着をはかるための時間を取る。	ア ①・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率を２％上げる（H29,78%） ・授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均を0.05上げる（H29,3.36） ・「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均を0.05上げる（H29,3.10） ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均を0.05上げる（H29,3.13）	
		②・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材（ＩＣＴや視聴覚教材）の使用等により工夫して授業を行う。 ・教材は共有し、教材作成の負担軽減を図る。 ・授業の中で生徒に考えさせる時間を取る ・授業の中で生徒にコミュニケーション能力が身につく仕掛けづくりをし、生徒とコミュニケーションを取る。 ・	②・学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率を２％上げる（H29,83%） ・授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均を0.05上げる（H29,3.17） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均を0.05上げる（H29,3.33）	
		③・授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	③・年2回以上研究授業や授業研修を行う	
	イ　授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。	イ・授業規律を確立するために、教職員が一丸となって生徒に注意をする。 ・授業中の携帯電話指導を継続する。	イ ・「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均を0.05上げる（H29,3.33） ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均0.05上げる（H29,3.23） ・学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率を３％上げる（H29,64%）	
	ウ　ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。		ウ・H29年度中退率（12.8%）より1.7%下げる。	
	（2） 授業において、図書室の利用を促進する。	（2） 授業において図書室利用することで、生徒の利用を促す取り組みをする。	（2） ・図書室利用人数がH29年4～2月合計の706人を下回らない。 ・毎月の生徒の図書貸し出し数の増加（貸し出し数調査は今年度から開始）	

府立寝屋川高等学校

2　人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える	（１）基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア　教科の学習およびＨＲ・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通した指導 （２）人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア　挨拶ができる生徒を育てる。 イ　生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる ウ　各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。 エ　ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。 （３）生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。 （４）中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。	（１） ア・全教職員がすべての教育活動を通して、また、外部人材等を有効活用しＨＲ及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さ」について考える機会を設ける （２） ア　・教職員から生徒に積極的に挨拶するとともに、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。 イ　・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。 ウ　・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する。 エ　・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする。 （３） ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する。 ・各教員が家庭連絡を密にする。 ・HP 等で学校の情報を発信する。 （４）中退防止コーディネーターを中心にＳＣやＳＳＷとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。	（１） ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を３％向上させる　(H29,79%) （２） ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をしている」の肯定率を３％向上させる。(H29,68%) イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行えている」の肯定率を３％上げる。(H29,77%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに 50%以上に保つ。 (H29,体育祭 51%、文化祭 51%) ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員等の人数を前年度より増やす。(H29、合計 437 名) エ・ボランティア活動の継続 ・部活動加入率 (H29,32%)を 3%増加させる。 （３） ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を２％上げる (H29,81%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が 85%を下回らないようにする。(H29,86%) （４） 中退率を 1.7%下げる。(H29,12.8 %)	

府立寝屋川高等学校

３　夢や志を抱く喜びを伝える	（１）　進路指導の充実を図る。 ア　進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。 イ　進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。 ウ　就業体験をする生徒を増やす。	ア ・進路ＨＲや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 ・外部機関や卒業生と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける。 ・生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。 ウ・一人でも多くの生徒が充実した就業体験ができるように指導する。	ア、イ ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を３％上げる。(H29,79%) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を３％上げる。(H29,80%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を 85%にする。(H29,83%) ・卒業生の進路決定率を 60%以上にする。(H27,53% H28,62% H29,73.2　%) ウ・生徒の５月時点の就業率よりも年度末の就業率を５％高くする。	
４校内組織の活性化と人材育成	（１）校内組織の活性化と職務の効率化の取組み ア　校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。 イ　時間外勤務を軽減させる （２）首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む	ア・本校の将来めざすべき方向性、取り組むべき施策、解決すべき課題について具体的な取り組みを話し合い提案する。 イ・職務が勤務時間内に終えるよう、効率的に取組む。 （２）・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。	ア・具体的な提案がなされたか。 イ・年間を通して時間外勤務を 360ｈ以内にする （２）・年間を通して育成のための研修が２回実施できたか（H29,１回）	